

# 先天性風疹症候群にご注意！

昨年から全国的に風疹の患者発生数が増加傾向を示しています。風疹の全国的な大流行は、近年では 1976, 1982, 1987～88, 1992～93 年に認められ、ほぼ 5 年周期で繰り返されてきました。そして、1993 年を最後に全国的な流行は見られなくなりました。しかし 2002 年には局地的な流行が続いて報告され、2003～2004 年には流行地域の数が増加してきました。そこで昨年 4 月に厚生労働省が、医師会や都道府県に対し注意喚起を促すための通知を出しました。2005 年にも引き続き風疹の流行が続くことが懸念されています。

## 風疹とは

風疹は風疹ウイルスに感染することにより発症する病気です。風疹患者が、咳やくしゃみなどをして生じる飛沫の中に風疹ウイルスが含まれていて、この飛沫を吸い込むことで感染します。症状は発疹・リンパ節腫脹・発熱が主なものです。別名「三日はしか」といわれる程、症状のある期間が短い疾患です。風疹は一般的には幼児や学童期の子供の軽い病気と思われがちですが、風疹に対する免疫が無い、あるいは免疫が十分でない女性が妊娠初期（2～22週）に罹患すると、産まれてくる子供の目・耳・心臓に奇形などの障害を生ずる可能性のある疾患です。これらの障害は先天性風疹症候群と呼ばれています。このような障害をもった患児の出産を恐れて、1976年の流行では、風疹関連の人工妊娠中絶が全国で2500件以上にのぼりました。

## 予防法はワクチンが一番

先天性風疹症候群の予防にはワクチン接種が有効です。風疹抗体を持たない女性は、妊

娠前に医療機関で予防接種を受けておいた方がいいでしょう。風疹抗体の有無は医療機関や保健所で検査できます。妊娠の予定がある場合は前もって検査を受けておくのがいいでしょう。なぜなら、ワクチン接種後は最低でも 2 ヶ月間は妊娠出来ませんし、妊娠中のワクチン接種も出来ないからです。

1994 年の法改正により、現在の風疹ワクチン定期接種は生後 12～90 ヶ月の年少児（男女）を対象にしています。これは主として風疹に感染し易い年少児への接種により、風疹の流行を抑制することを目的としています。法改正以前は女子中学生が接種対象でしたが、ワクチン接種対象の変更により、ワクチンを受ける機会を逸してしまった世代が生じてしまいました。その世代とは、現在 17 歳～25 歳の男女（1979.4.2～1987.10.1 生まれ）で、風疹ワクチン接種率が他の世代に比べて極めて低い状態です。予防接種の費用を国が負担する経過措置もありましたが、広報が十分でなかったため、この世代の約半数に相当する約 610 万人がワクチン未接種のままです。現在、この世代が妊娠可能な年齢になったことにより、妊娠時の風疹罹患による先天性風疹症候群発生件数の増加が危惧されています。

## ワクチン接種は女性だけでなく男性も

ワクチン接種は女性に必要なのはもちろんのこと、場合によっては男性にも必要です。なぜなら、風疹ウイルスを妊婦のいる家庭に持ち込むのは、子供や夫などの家族によるものが多いからです。そのため男性も必要に応じて、自分の家族に感染させないように、ワクチン接種を受けて十分な対策をした方がいいでしょう。（微生物部）